

世 界 史

I 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

社会経済史的にみた中世北欧都市*の特色は、何よりもまず、それが「一つの大きな家計」単位として自覚せられ、「市民的生活全体の統一」として把握されうる点に存すると思う。そのわけは、市民の経済生活は、すでに相当程度の職業分化を前提としており、各家族のオイコス(家・家政)的・自給自足的理念を克服した点において、またランドゲマインデ(村落共同体)的・地縁的因習に束縛されぬ意味において、さらには領主的封建支配の桎梏を断ちきった意味において、原理的に、およそ村落団体とは異なる形成体となり得たからである。

すぐれて結晶的な景観を示すあの都市の中央に設けられた市場は、市民全体の経済活動の核心をなしていた。市場の繁栄は、ただちにもって「一つの家計」としての同質社会たる市民全体の福祉に影響する。(中略)それゆえ、極言が許されるならば、この家計の構成員たる市民は、文字通り一つの“Stadtvolk”*であり、いうところの「都市経済」とは、“Stadtvolkswirtschaft”*にほかならないとも考えられる。

「都市経済」がこのような基盤と性格とを前提とするものとするならば、そこには必ずこの経済単位を規制する何らかの経済意欲が誕生しなければならない。すなわち、マックス・ウェーバーのいわゆる“wirtschaftsregulierender Verband”*としての意識は、「都市」または「市民」というものをば、まったく新しい経済政策のトレーガー(担い手)として登場せしめることとなる。ここからまたわれわれはいわばパトリモニアル(家産的)な封建領主のそれとは質的に異なった高次の政策意欲を指摘することができる。

では都市の経済政策は、いかなるかたちをもってあらわれるのであろうか。われわれはこれを、あの有名なビュッヒャーの経済発展段階説がしめすが如き、単に封鎖的なものとして一方的に規定するのではなしに、「封鎖的な面」と「開放的な面」との統合として考察すべき十分の理由をもっている。というわけは、中世社会において、都市が果たした経済的役割の重要性を as such として評価し、他方、中世市民

がもっていた経済心理を考慮する場合，どうしてもこの両面の性格が矛盾なく並存していた事実を認めざるを得ないからである。

(増田四郎『増補 西欧市民意識の形成』より引用。但し，一部改変)

*北欧都市：ここではアルプス以北の都市を指す。

*Stadtvolk：「都市住民の総体」等を意味するドイツ語。

*Stadtvolkswirtschaft：「都市住民全体の経済」等を意味するドイツ語。

*wirtschaftsregulierender Verband：「経済的規制団体」等を意味するドイツ語。

問い 文章中の下線部について，下の史料に示されたビュッヒャーの見解の批判的検証を通じて都市経済の「封鎖的な面」と「開放的な面」を明らかにしつつ，アルプス以北の地域において中世都市が果たした社会経済史的意義を，12～14世紀の神聖ローマ帝国領域内の複数の都市の事例に即して考察しなさい。(400字以内)

史料

中世都市市場の搬入及び供給区域は地誌学的に精確に区画され得ないことは，その搬入及び供給の区域は市場貨財の異なるに従って自然にその延長を異にしていたがためではあるが，それにもかかわらずこの区域は経済的意味よりいえば，一箇の閉鎖的区域を形作っていたのである。すなわち各都市は，その周囲の「地方」と共に，自主的な一経済単位を形成し，この範囲内において，経済生活の全過程がその地特有の規範に準じて，独立的に完遂されていた。

(ビュヒャー(ビュッヒャー)『増補改訂 国民経済の成立』より引用。但し，一部改変)

Ⅱ 大西洋奴隷貿易により始まった南北アメリカ大陸・カリブ海域における奴隷制は、19世紀にそのほとんどが廃止された。19世紀における一連の奴隷解放の動きは、リンカンが「奴隷解放の父」として顕彰されるなど、各国の歴史において偉業と位置づけられ、また近年ではUNESCOなどが、奴隷解放を記念する国際年のイベントを開催している。

しかし、2020年に米国で燃え上がり、世界各地へと広がったブラック・ライブズ・マター運動では、黒人たちの貧困や黒人への日常的な人種差別、暴力が問われ、彼らは「黒人の命も大切」と訴えた。奴隷解放から一世紀以上が経つのに、なぜ不平等な扱いをいまでも強いられるのかと、ブラック・ライブズ・マター運動ではあらためて奴隷制という負の遺産の大きさと、奴隷解放のプロセスの問題点に注目が集まった。

奴隷貿易や奴隷制の廃止に必ずしも「偉業」とは評価できない側面があり、それが現在の黒人たちの不遇な境遇と結びついているとすれば、それはどのような点だろうか。奴隷を解放した側からではなく、解放された側、すなわち、元奴隷や黒人社会、アフリカ各国の側からみた場合、奴隷解放とその後の解放された黒人に対する政策は、どのように評価することができるか。19世紀の奴隷貿易・奴隷制廃止の一連のプロセスを概説した上で、奴隷解放の問題点を中心に当時の国際関係や政治経済情勢に着目しながら論じなさい。ただし、下記の語句をすべて必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(400字以内)

13 植民地の喪失、西半球の最貧国、シェアクロッパー制、アフリカ分割

Ⅲ 10世紀から12世紀頃，唐王朝の滅亡に伴って発生した東アジア世界の政治的・社会的変動を述べなさい。(400字以内)